

支部便り

平成22年10月みつわ会東北支部

3度目の莫塵丸（ござく・森商店）ですが、今回はうら側の中津川沿いに連なる土蔵群です。前方の下流に中の橋があり、ゆったりと流れているこの清流には毎年サケが遡上してきます。この道路も下の小道も盛岡を代表する散策のポイントとなっています。（大矢）



10月の行事

	支部	みちのく損保
10月8日（金）		釣り同好会（ハゼ）
15日（金）	※幹事会 有りそで無さそで 調整中	歩コール会
25日（月）		釣り同好会（ハゼ）
29日（金）		ゴルフ 西仙台

※いずれ連絡あれば開催、無ければ無。

海釣りで大型ヒラメをゲット

柿沼 幸男

初めてのヒラメ釣りで58センチのデッカイ？ヒラメを釣り上げた。

8月31日（火）近所の釣り仲間、支倉さんと早朝3時頃に車で家を出発する。

塩釜港4時出船の釣り船・晋漁丸に乗船、魚場の奥松島沖へ向かい約一時間後に到着する。当日は晴れ、波高約1メートル、風も弱く絶好の釣り日和で、逸る気持ちで釣り糸を垂らしようし釣るぞと意気満々だ。

時間の経過と共に周りでボツボツ釣り上げたゾーの声と笑顔が出始めるが、小生には全く当りが無い。

ヒラメ船釣りは初めてであり、前日までホームページで釣り方・生きイワシ餌のつけ方・仕掛けの選び方ナドナド情報を得て万全の準備で望んだはずが効果無く、時間が空しく過ぎるばかりである。若しかしたら今日はボウズかもと段々と気が焦り始めたその時コツンと当たりが来た（ガマンガマン）、

間を置いてグングンと当りが強くなり合わせたところ食い付いた感じ糸を巻き上げる。

水面まで上がったところで船長にタモですくいを手伝って貰い



やっと一匹目を（40センチ）釣り上げる。

ヒラメ釣りは非常に根気がいる、当りがなかなか来なく食いが無いと10分位で船は移動する。一日の中で数少ない「当たり」をどう捉え、針掛かりをさせることが出来るかがポイントである。案の定たまに来る当りを、すぐ引き上げてしまい逃げられるケースが数回続きうまく釣れない。

またまた時間が経ち、10時頃仕掛けが海底に着いて間もなくガツンと非常に強い当たりが来た、巧く針掛りしたので糸を巻き上げる。2.4メートルの竿が大きく曲がり強い重みを感じる、これは大物だ（°)))多

船長の息子が傍に来て、ゆっくりゆっくり巻き上げてと周りの人と一緒に声を掛けてくれる。かなり重く時々竿が大きく曲がる、慎重にゆっくりゆっくりと自分に言い聞かせ巻き上げ水面まで上がったところをタモですくって貰う。ヤッター二匹目は大型ヒラメのゲットである*** 船長の息子が検量し58センチの大きさ、写真も撮ってくれる。

その後当たりが少なくなり11時頃に納竿し帰港する、当日の釣果は二匹であったが中身のある釣りでした。ちなみに船中の釣果は10人で26枚（35～70cm）イマイチだった（船長談）との事。



追記：夕方大型ヒラメは刺身用に5枚に下ろし1枚だけ夕食で早速頂く、非常に美味しい。残りは後日に。中ヒラメは煮付けで食べたがまた格別の味であった。

再度挑戦しよう・・・と。

白井さんの人物往来（続1） 星利夫

少々話が遡りますが、岩手県江刺郡稲瀬（現江刺市）に広大な土地を所有していたお寺、如意輪寺があり、これが白井ご先輩の生家です。そもそもは、伊達藩の密命を受けた隠密僧が住職を勤めるお寺で、因みに奥まった2階の納戸には、武具、即ち鎧胴、刀槍、火縄銃類が数多く収蔵されていたことがそれを物語っています。白井ご先輩は、大正9年（1920年）5月18日に出生されて、教員、警察官そして2

代目如意輪寺を継いだ父母の下で幼少時代を過ごし、大正15年4月1日に稲瀬小学校内門岡分教に入学となります。

よく大正っ子と云われまして、大正生まれの方々の世代の特徴がよく取り上げられておりますが、その前に、大正っ子を育成した両親たちの活躍した時代、明治時代の主要な出来事を振り返る必要があります。その時代背景の中で親達の子弟に対する家庭教

育は、学校教育の知能教育とは異なった「人生如何にあるべきか」の視点に立った徳育を担ってきておるものと考えます。ここに学校教育と家庭教育の両輪論が取り上げられる所以であります。

このように、大正っ子は、必然的にその成長過程の中に、明治革新の時代風潮を一身に浴びて生きてきている両親の支える30歳代、40歳代の家庭環境こそその人格形成上の重要なファクターと思われまます。特に白井家のお父上は、小学校の教員、警察官を経た後、2代目如意輪寺住職を継いだ方です。子弟の教育が、厳格を極めたことは想像に難くありません。

大正っ子といわれる時代は、明治45年(1912年)に始まり昭和元年[1926年]に終わります。大正時代が始まるとともに、その当時の国内の政治、経済情勢、そして国際環境は、近代国家としての日本が、西欧列強に伍して更に国勢の伸長を目指すことで、東南アジアにすでに橋頭堡を築く諸外国との間に当然の如く軋轢が生じました。

大正、昭和にその青年時代を迎えた世代の人々は、「富国強兵」、「大正ロマン」、「撃ちてし止まん」に表徴される未曾有の変動の時代の波をかい潜ってきた人々です。

そのような両親達の少、青、壮年時代の明治時代後半を見ますと、明治22年(1889年)「第1条 大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス」に始まる帝国憲法の発布、翌23年(1

890年)には、第1回帝国議会開催と近代国家形成のための国内体制の確立を果たす一方、国外情勢に目を転じますと明治27年(1894年)には、日清戦争の勃発、その戦勝後間もない明治37年(1937年)には、ロシアの南下政策、中国の権益確保等の動きの中で日露戦争となり、日本は、勝利を得たもののその要求の一部を達したのみで、講和条約締結のやむなき仕儀となりました。そして、朝鮮を南下列強の堤防と標榜し、遂に明治44年(1910年)日韓併合を断行しました。そして同年に成立した西園寺内閣は、軍備よりも財政回復の重要性を説き、陸軍の2個師団増強を主張する軍部の要請を退けましたが、これに反発した陸軍軍部が、陸軍大臣候補を内閣に推薦しようとしなかったことで、組閣が不可能になり、西園寺内閣は、ついに明治45年(1912年)、年号が大正に変わった元年12月に総辞職となりました。

その当時、岩手県の中学校は、盛岡中学校(盛中せいちゅう)、一関中学校(関中かんちゅう)と並ぶ名門の黒沢尻中学校(現北上高校)があり、他に県立中学校は、福岡中学校、遠野中学校のみで、当時の入学者は、裕福で知名の家の出が一般でした。昭和6年(1931年)に、満州事変が始まり、翌7年には、満州国が独立し、その2年後、昭和8年(1933年)には、国際連盟を脱退するという世界の孤児の道を選びました。

この年が黒沢尻中学校入学の年でした。2学年の時剣道部に勧誘を受け、部活動に取り組み始めました。当時、中学校には、陸軍の現役将校が配属され、全学生に軍事教練を実施しております。

そして2学年の或る日、ストライキ事件が起きました。ある教師が、学年成績になる試験問題を、既習範囲外から出題したのです。その不当を主張した学生たちは、授業ボイコットをするに至ったということです。校外の花壇に集まり、教場には入りませんでした。

自由民権の余燼を残す明治に生を受けた両親の下に、その薫陶を受けたとは言え、前代未聞の事件として当時の世間の耳目を騒がせたことは疑いをいれませんが、これを収拾した校長の処断は、まさに事理をわきまえた明治男子の決断以外の何ものでもありません。生徒に対する処罰は一切なし。その教師に対しては、何らかの指導があったと思われませんが、外には出しません。この英断は、その行為が、生徒達の未熟ながらも純情一途より生じたものと理解した上での処置と考えられます。この生徒と、校長の一連の行為は、まさに特記すべきもので、夏目漱石の「坊っちゃん」と山嵐や赤シャツの行為が思い出されます。

一方、20世紀初頭国外では、スペイン、ポルトガル、オランダに始まる欧米列強の植民地政策は、南米、アフリカ、インド、アジア地域に展開して、すでにその植民地経営の成果を享受

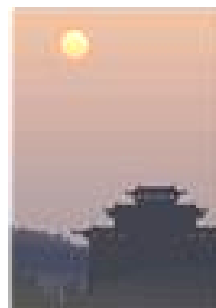
していた。日本政府の要人は、中国大陸への進出とアジア南方への進出を国策として決めたのは、この昭和11年（1936年）、広田弘毅内閣のときでした。そして昭和12年（1937）、白井ご先輩が中学4年生の時に、盧溝橋事変所謂支那事変が起きました。

クラスからも予科練を志願した者、海軍兵学校、陸軍士官学校に入学を果たした学生もいました。その頃、剣道と学業の両立が難しく近眼を理由に退部が認められたところに、英語の先生より園芸部の組織を依頼され、これを難無く成立させたのは、5年生の時、卒業の年でした。

青春を謳歌した黒沢尻中学校を卒業した年の前後の内外情勢を顧みますと、昭和12年（1937年）、

華北を中国から切り離して満州国建国への道をひた走りしていた軍部の暴走を止められなかった近衛文麿内閣の7月、北京郊外の盧溝橋付近で日華両軍の衝突があり、中国との泥沼戦争に突入することになりました。

戦時色に包まれた国内では、カーキ色の戦時服或いは平服の青年が町内の人々の見送りに囲まれ、武運長久などと墨で黒々と書かれた襷を肩に、挙手の礼をして挨拶している風景が珍しくなくなりました。





そのように
次第に戦時色
が日常茶飯事
になろうとし
てた昭和13

年（1938年）に、ご先輩は、風邪のため早稲田専門学校の政経学部（専）の入学テストの受験が出来ず、法学部の受験には合格しましたが、伯父の意に沿って1年浪人し、翌14年に政経学部（専）に合格しました。早速1年生の時に兵隊検査があり、近眼のため第I乙種で現役合格でありました。念願の政経学部には、当時、交友の中に朝鮮人2名の他台湾人の学生が在籍していました。

この昭和14年（1939年）は、ノモンハン事件の起こった年でありましたが、日本軍の敗北と在留邦人の多数の犠牲者についての情報は、軍部の緘口令により、闇に葬られ一般世人の耳には入りませんでした。翌15年日独伊3国同盟が締結され、北部仏領インドシナに日本軍の駐留がなされました。

国内は、大政翼賛会が創立された一方、大東亜共栄圏・5族共和の叫びの中にあり、2学年に進んだ白井学生は、夏休みを利用して朝鮮・満州を直接自分の目で確かめようと、関釜連絡船で朝鮮に渡りました。京城より平壤へ、そして満州の安東を経て、奉天に向かいましたが、鞍山の露天掘り、そして満鉄の規模の壮大さに大きな感銘を覚えたそうです。然しながら、釜山へ

の連絡船では新調の革靴が盗難に会い、朝鮮の世情の荒廃が強く印象付けられたとのこと。このように、多感な学生時代に於いても、想至れば永く温存せず時を見て決行する実行性は、先天的と思わせるものがあります。

昭和16年（1941年）には、日本軍は、南部仏印に駐留し、アメリカに宣戦布告。ハワイ真珠湾を奇襲したニュースは、3年生の時に、冬休みに帰郷した折に実家でラジオで聞きました。第2次世界大戦勃発の大本営発表です。

昭和17年（1943年）に政府は、学徒動員令を発令し、学生に対する徴兵猶予制を撤廃しました。政治経済学部（専）昭和17年3月卒業見込みの者は1月31日に繰り上げ卒業となり、即2月1日入隊予定のところ、学部に推薦入学となり、入隊は延期されて、新設された補習科に3月31日まで籍を置きました。そして4月1日学部に入学しましたが、5月1日に兵役延期を認めないとの軍命令が出されて10月入隊が決定しました。総長より日章旗に揮毫して頂き6月に休学届を提出して実家に帰省されてからは、専ら体力の増強と、軍人勅諭の精読に務め入隊に備えたそうです。

そして10月、1等兵として盛岡の第16歩兵部隊に入隊となり、それから終戦まで、軍務に従事することになります。

次回に続きます。

公会堂

この岩手県公会堂は、昭和2年(1927年)に昭和天皇のご成婚記念事業として竣工されました。

東京日比谷公会堂と同じ設計者によるもので、外壁をレンガで飾った近代ゴシック様式のモダンな造りです。

一時期、取り壊しの危機に直面したことがありますが、今は国の登録有形文化財になっています。(大矢)



(編集独り言)

柿沼さんの稀に見るビッグカレイがビッグレポートとなり掲載されました。70過ぎて
もなお新しいステップに挑戦するところが素晴らしいです。見習いませう。

次回の釣果とお裾分けを期待したい所。(涎・・・)

大矢さんの「公会堂」は、以前メールを貰っていたのに、何故かパソコンから消えてしま
ったので、改めて送ってもらったもの。バックアップを怠るとこういうこともあります。
で、今回2点が載りました。大矢さんは今回で「盛岡シリーズ」は一休みと申しております。
次は何でしょう。星さんの「人物往来」は当分続きそうです。

釣りでも絵でも何でも、とにかく挑戦、挑戦。若返りは頭から、です。

さて10月は国勢調査。仙台市から「外部調査員はマンションの調査で難航するので、(マ
ンションでやったって難航するのだが)今回内部から調査員を推薦して頂きたい」との依
頼があり、嫌だとは言えず引き受けたので、早速ダンボールで100人分近い書類一式が
届きました。各戸の戸別訪問は、する方が億劫なのも勿論、される方も歓迎しないし、調
査員以外による補助作業は違法と知りながらも、理事会でどこかに関所でも設けて一斉に
やっつけようかとも考えているのですが、どうしたものか。

コミュニケーションのいいチャンスではあるのですが、政治家さん達が何かと言えば「国
民の皆さん」を連発するので、その「皆さん」がイイ気になってどんどん我儘になり、プ
ライバシーとかの保護を金科玉条の如く心得るので、一つの事で纏まるのが難しい時代。

他人に無関心すぎる社会は、既に社会という体を成していないのだぞ、と年寄りが呟い
ている初秋です。

——— 長い編集後記になりました。———

